

台風ばかりの気象・急げ防災無線整備！

10月3日から防災無線の試験放送が始まりました。町では、昨年から区長さんや町民の皆様からの要望に応えるため防災無線を整備する計画を立て、国の補助事業になるように今年3月に業者選定を行い、4月の新予算執行を待って4月2日に臨時議会を開き契約承認を議会からもらい防災無線整備を進めてきました。

今回の防災無線は今までの屋外放送のあった位置を基本に明和町内32カ所に設けました。そして今までの屋外放送よりも高い位置で高さ15メートルの支柱から音声を発する仕組みです。今までの高さより高いため、うるさく感じる感覚がうちばになると業者から聞いています。また、音声が干渉して聞きづらい地域をなくすため干渉する地域のスピーカーを時間差で放送するシステムを取るようになっていきます。また、どうしても聞こえづらい家には補償金を納めていただき戸別受信機を貸し出します。また、普段は100ボルト交流電源を使っていますが停電などで交流電源を失っても、個々のバッテリーにより48時間放送可能となっています。これで非常時には町内各家庭に避難準備情報や避難勧告、避難指示などが伝達できると自負しております。

そして、避難は原則的に自分でするものですが、明和町の災害で一番の心配は何といっても利根川です。現在、下流域から堤防の強化工事が行われ明和町の梅原地先まで堤防の腹付け工事（堤防を太くする工事）が行われ、今後は伊勢崎市まで進んで行きます。利根川は非常に長い距離を高低差があまりない状態で流れているため、水の流れる速度が遅く上流からの水の量を飲みきれず、古河で渡良瀬川と合流した際、その下流域である鬼怒川や小貝川の水位が高い場合、利根川の水の流速が極端に遅くなり堤防を水がこぼれる越水が発生し、やがて決壊につながると予測されています。明和町が町民の皆様方に避難準備情報や避難勧告、避難指示を出す場合には、次の状況が考えられます。渡良瀬川と利根川の合流地点の古河の水位が下流域（鬼怒川・小貝川）の増水のため高い場合に、伊勢崎の八斗島の水位が利根川上流の大雨で高い場合には中間の板倉町、明和町、千代田町、大泉町、太田市のいずれかで越水の状態が起こる可能性があるため、越水等が起こる約1～2時間前に避難準備情報や避難勧告、避難指示が出る可能性があります。避難する皆様には十分時間がある形で警報が出されます。

最近の50年に一度、100年に一度という大雨がいつも簡単にいたるところで毎年降る状況では、本当に堤防越水は起こる可能性

があります。

そして、避難する場合には避難先や災害弱者（障がい者や一人暮らし高齢者）などの世話を誰がするかあらかじめ決めておく必要があります。

災害からの命は自分で守る（自助）・隣近所で助け合う（共助）そして行政などに助けを求める（公助）これをうまく機能させながら明和町民の皆様の生命・財産を守るための一助として防災無線を設置いたしましたが、本当の災害で使わずに済むように願うばかりです。備えあれば患いなし。

平成28年10月18日

明和町長 富塚もとすけ